

六 月 の 天 象

太 陽

日	赤 經	赤 緯	星 座	視直徑
6	4時54分	北22度36分	う し	31分34秒
16	5時35分	北23度20分	う し	31分32秒
26	6時17分	北23度24分	ふたご	31分31秒

本月の22日は夏至で太陽が天空上で最も北へ寄るこきである。その日の太陽の位置は赤經 4 時 0 分、赤緯北23度27分である。

又観測欄の太陽の項をみればわかる通り 6 月に太陽の南北軸が地球の方に直角になり従つて太陽の赤道が一直線に観える。

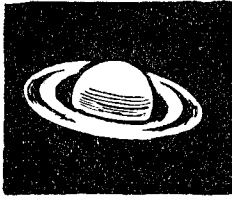
月

月の相	時 刻	星座	視直徑
下 弦	1日午前 1時13分 0秒	みづがめ	30分25秒
新 月	7日午後10時56分24秒	うし	33分21秒
上 弦	14日午後 2時14分30秒	しし	31分22秒
満 月	22日午後 1時15分 0秒	いて	29分25秒
下 弦	30日午後 0時53分42秒	うた	31分 1秒
近地點通過	8日午後 0時30分	うし	23分24秒
遠地點通過	22日午後11時54分	いて	29分23秒

3 日午前 8 時、既に天王星と月とは出會つて、月は其の南を通り過ぎる。次いで 4 日午後 11 時には、殆んど金星に衝突せん許りの近距離に並ぶのであるが、相憎、其の時刻には未だ、月は出てゐないので、我國からは見る事が出来ない。併し暫らく待てば、金星の北側を僅か通り過ぎた景色が、東の空に登つて来るだらう。6 日午後 7 時に木星と 1 度以内の所を通るが、新月に近いので駄目。8 日早朝に水星と出會ふが此れも見られぬ。11 日午後 10 時に火星と出合うて、更に翌 12 日午後 5 時海王星の傍を通り過ぎる。其の後は 22 日午前 7 時土星と出合うて後、再び天王星と 30 日午後 5 時に近附いて、今月の遊星歴訪を終る。

土 星

六月に成れば日が暮れるご間も無く土星がその輝かしい姿を東の空に現はす様になる。距離も此の月の上旬に地球に最も近いし、光度も $+0.2$ 等



まで進み、視半径が 8.3 秒までなる。小さな望遠鏡の所有者でも天界に全く比を見ない彼の美しいちまき姿を觀察して楽しむことが出来る。土星の輪は一ご續きのもでなくて無数の岩石塊の群である。普通の望遠鏡でも内輪と外輪を別つカシニの裂け目を容易にみる事が出来る

し、又九個の衛星の中の最も大きなチタンだけは認める事が出来る。

遊星面の觀察は詳しいスケッチを残して置くことが望ましい。上圖は私のスケッチブックから寫し取つた一例にすぎない。

初めて望遠鏡で土星を觀るものは何ご幸福だらう。幾多の學問好きの少年達をして天文學に向はした彼の雄麗な姿が懷かくし感ぜられる。

流 星 群

六月には割に古くからある流星群は少ないが、最近現はれた彗量に關係した流星群が、現はれる事がある。即ち、本月10日前後には、スケレラツプ彗星に屬する流星群があり、月末29日頃にはキンネケ彗星に屬する流星群が現はれる。共にさして著しい流星は出ないらしいが、光度の弱い速度の相當速いのが飛ぶ。兩者共まだ現はれ始めてから僅かの年數しか經ないから、尙今後共、十分觀測して此等流星群の性質を明らかにする必要がある。スケレラツプ流星群の輻射點は赤經 42.3 度 赤緯北 41.4 度、キンネケ流星群のそれは赤經 15 時 12 分、赤緯北 58 度の邊である。此を觀測するには午前 2 時頃がよい事は會員諸氏は十分御承知の事であらう。



春の星座の「しし」や「ふたご」も半ば西に没して、天の景色も、今が初夏の景色である。銀河が僅かに東に登つて、夏の星座の「わし」や「はくちょう」や「いて」「さそり」等がやつと登つて來た許りの所である。此からはカシオペアも見える様になる。北極星を半ば取り巻く「りゅう」は充分高くなつて來た。そして北斗七星も大分西によつて來て、吾々に見馴れた位置に近づいて來る。天頂には「まきを」がが**ん**ばり、ヘルクレス、「こぞ」や「へび」「へびつかひ」等も充分高くなつた。

南の空にはヒドラが長々と横たはり、その脊にコツプ、「からす」がのつてゐる。
センタウルや「おほかみ」ポンプ等の諸星座が南の空に、はるかに認められる。

